

結婚会見・不祥事会見での「記者会見兵法」(©戸村智憲)チェックリスト(押切り逃げ切り編)  
2021年10月25日作成時点 作成： 日本マネジメント総合研究所合同会社 戸村智憲

**結婚会見・不祥事会見での「記者会見兵法」(©戸村智憲)チェックリスト(押切り逃げ切り編)**  
作成： 日本マネジメント総合研究所合同会社 理事長 公認不正検査士(CFE) 戸村智憲

この度の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)渦中の苦境をはじめ、台風/豪雨災害・各種震災など各地の災害等で、国籍等に関わらず感染・被災された方々と復興者の皆様・世界各地の医療機関関係各位ならびに各種関係各位のご安全と1日も早い実りあるご快癒・復旧復興と共に、ご無念ながらに天上に召されました尊い御霊・御仏のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

さて、世の中では幸せへ向けての結婚が必ずしも祝福されるものとは限らず、また、不祥事会見なども詳細を語れない事情などがあるケースもあり、いかに、社会的対話を進めるかが悩ましいケースに直面し得るものでもあります。

また、政治家や芸能人なども含め、何を言っても何をやっても裏目に出て反感の火に油を注いでしまうケースもあり、企業不祥事では会社の存続すら左右されかねない窮地に追いやられる場合もあり得ます。

記者会見・謝罪会見などの企業役員などへの指導を行ってきた者として、今は称賛や祝福が得られなくとも、できれば、近い将来に傷口を広げず再起や好感度を高め直したり最終的な祝福が得られるたりする機会に恵まれるよう、記者会見のリスク対策・危機管理対応は重要だと感じられます。

そこで、特にどのような時期・ケース・対象者を想定・特定するものでもなく、一般的なお話しとして、詳細を説明できなかつたり詳細に触れると却って事態が悪化しかねなかつたりする場合などで、押し切るスタイルをとらざるを得ない際にも、少しでも多くの方が幸せに祝福を得られるようになればと願いつつ、記者会見のチェックリストをまとめてみました。

「記者会見兵法」(©戸村智憲)は、兵法の理にかなった記者会見の戦略的な対応・大局的な観点からのポイントを伝えるものであり、レトリックとしての「兵法」を意味するに過ぎず、なんらかのものと対立・対峙・敵対するのではなく、お互いにより良い道を見出す上での観点を意味しています。

なお、これは国際的なチェックリストでもなく参考案としての一例を部分的にお示しするものですので、各自の任意でのご判断に際しましては、ご自身の責任でご判断頂きますようお願い申し上げます。

✓	<b>チェック項目等 (陰謀論の監査視点でのチェックポイント)</b>
	<p><b>次の3つのステップを踏む： ①「ごめんね」、②「ありがとう」、③「決意表明」</b></p> <p>① <b>「ごめんね」</b>： 特定の詳細事項への謝罪ではなく、法令違反・有罪/無罪などに関わらず、世の中を騒がせたり、社会における心理的契約・期待などを裏切ってしまったことへの婉曲的なお詫び(うまくいけば社会・マスコミが都合よく解釈してもらえる余地を持たせたお話し)をソフトに伝えておく</p> <p>② <b>「ありがとう」</b>： これまでのご厚情や信頼へのお礼と共に、窮地において押し切っても強行突破したい事情が見え見えだとしても、貴重なお時間と労力などを割いて耳を傾けお話しのお場を頂けることへの御礼を、詳細に触れず婉曲的に伝えておく</p> <p>③ <b>「決意表明」</b>： 説明・釈明のスタンスをとってしまうと、説明不足・言い逃れ・言い訳などの炎上・反感増幅などの要素が生じかねないため、あくまでも、周りはどう言おうが「私たちはこうする」という決意とともに、心理的負担を軽減頂くよう配慮をお願いしつつも、ブレない主張(法廷でも「事実」と「評価(や主張)」は異なり得る)で言い切っておく</p>
	<p><b>「周りをあきらめさせる」ことをゴールに据えて進める</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周りに納得してもらうのが難しいケースも少なくない中で、それでも、納得させようとするとボロが出たり、主張にムリが出たり、見苦しくなりやすいケースもあり得るため、割り切って、あくまでも決意を伝えてブレずに押し切り、徹底して周りをあきらめさせるように進める</li> <li>・「もう何を言っても何をしてもムダ」と周りがあきらめてくれれば、一定数の方々の中には、「もう、どうせムダだし、強い決意も見えたから、少しは形式的にでも祝福しておいてあげようか」や「強い決意が本物なのか見極めよう」とか、これまでの過去の話から、「これからどうやって公私ともに良き取り組みや幸せへと進むのか見つめ見守ってみようか」といった心理的反応を引き出せるようにしておく</li> <li>・上記のためにも、傷口を広げず、言質を取られないよう詳細に触れず婉曲的な表現に徹しておく</li> </ul>
	<p><b>不祥事を起こした政治家・官僚の答弁方法に学び、繰り返し同じステップで同じ内容を婉曲的に伝え続けて、記者や社会から「もう何を聞いても核心的な答えを望めない」と思わせ、反感の火に油を注がず相手の戦意を削ぐ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な意地悪な質問や詳細を問う質問などに対しても、唯一示せる一貫性としては、詳細を応えず押切り逃げ切るためにあきらめさせる、ということであり得るため、前述の①「ごめんね」②「ありがとう」③「決意表明」の3ステップを繰り返す</li> <li>・特に他意も特定の想定対象者もないが、たまたま例として結婚に反対されている不祥事(有罪/無罪の別はさておき少なくとも不適切な言行)でなやむカップルへの質問を仮定すれば、おおよそ、先にあいまいに①～③で会見での発言をしておき、                  記者：「～の不祥事・問題はどうかさるのですか？」                  対応：「～の件で世間を騒がせていることに心苦しく申し訳なく思います。そのようなご心配の声も出るほど、厚いご信頼やご期待をお寄せ頂きお話しのお場を頂けることに心より感謝申し上げます。今後はいろいろとご心配をおかけしな</li> </ul>

	<p>いよう二人で手を取りあい揺らぐことのない愛情をもって、幸せに生き働き、社会により良い存在となれるよう努めて参りたい所存でございます。」                  など</p>
	<p><b>立場や社会的責任を踏まえて、私的な立場からも社会への心配りをする旨の発言を織り交ぜておく</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間は一人だけ、あるいは、カップルだけで生きていけるものでもなく、社会との関わりあいの中で、時に、社会からの賛同や応援を得ることが極めて重要にもなり得るため、私的な立場からも、社会への心配りをにじませておく</li> </ul>
	<p><b>「天の時」「地の利」「人の和」から情勢を見極め、記者会見での対応策を見出す</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仮に、コロナ渦中の現状で記者会見を行うことがある場合には、記者会見兵法として以下の3つを踏まえて、戦略的な記者会見となるよう対応策を見据えておく</li> </ul> <p>① <b>「天の時」</b>： コロナ渦中で世界的にストレスがたまりはけ口・攻撃先をみつけようとしがちな状況で、地震・火山噴火・風水害などの災害関連で社会の人々が傷つき、関係者の中に重大な疾病などがある場合などでは、ほんわかとにこやかな記者会見を開くと、自分たちだけ浮かれている・社会のことをわかっていない、といった反感増幅要素で傷口を広げかねないため、リスク管理に慎重を要する。他に注目される話題があれば、その陰に隠れやすいタイミングで記者会見を開く。</p> <p>② <b>「地の利」</b>： 兵法で言う「死地」(川を渡っている時や足下をすくわれて戦いにくい沼地・ぬかるみや、伏兵を置かれやすい谷など)では、速やかにその場を脱するよう、押切り・逃げ切りで通過することを最大限に優先し、安全性のある地に移動した後に、体制を立て直して回復・挽回できるよう傷口を広げないようにする。</p> <p>③ <b>「人の和」</b>： 友好的な後ろ盾や援軍や擁護者がいれば最大限に活用し、非友好的な関係性の中での記者会見となるなら短期決戦で長引かせず、傷口を広げず少しでも賛同者・援軍となり得る者の数を増やす可能性を広げておく。事情や詳細を十分に報じられていない地や詳細に知らない者の地で身を寄せることも検討する。事情をよく知らぬ者には、事実を少し混ぜつつ違法性が問われにくい範囲で虚飾を施し影響力を過剰に見積もらせて味方に巻き込み最大限に踏み台として利用する。非友好的な存在に情報を得られにくい地に滞在して機を見て動く。</p>
	<p><b>記者会見中の表情・しぐさなどの非言語的コミュニケーションと会見時間に留意する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラジオや雑誌などの言葉がまとめられる記事だけなら、不用意な発言を避けるだけで事足りるが、テレビや動画や写真などで表情・しぐさ・目の輝き(または目が死んだような状態など)は、文章で表す以上の致命的なインパクトを与えかねず要注意。</li> <li>・押切り・逃げ切り型では、にこやかさや見つめあつての微笑ましいシーンで却って反感を得るよりも、口元をきゅっと結びしっかりと強い目力をソフトに保ち、ブレずに決意を伝えて、周りをあきらめさせつつも、5分が通例なら4分30秒は「ごめんね」「ありがとう」「決意表明」を社会への心配りも織り込んで埋め、30秒で司会から心理的負担などに配慮して頂くよう記者をけん制しておく。</li> </ul>